奈良国立文化財研究所概要

1988

目　　次

沿　革　付年表…… 2

組　織…… 3

機　構…… 3
定　員…… 3
役 職 職 員…… 4

予　算…… 4

歳 出 予 算…… 4
科学研究費補助金…… 4

施　設…… 5

土地及び建物…… 5

事　業…… 7

建造物研究室…… 7
歴史研究室…… 7
平城宮跡発掘調査部…… 8
飛鳥藤原宮跡発掘調査部…… 9
飛鳥資料館…… 10
埋蔵文化財センター…… 11

普及活動…… 12

公開講演会…… 12
現地説明会…… 12
刊 行 物…… 12

蔵書及び資料…… 14

沿　革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年４月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれたことによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の４室で発足した。

その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年４月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年４月には飛鳥資料館、昭和49年４月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

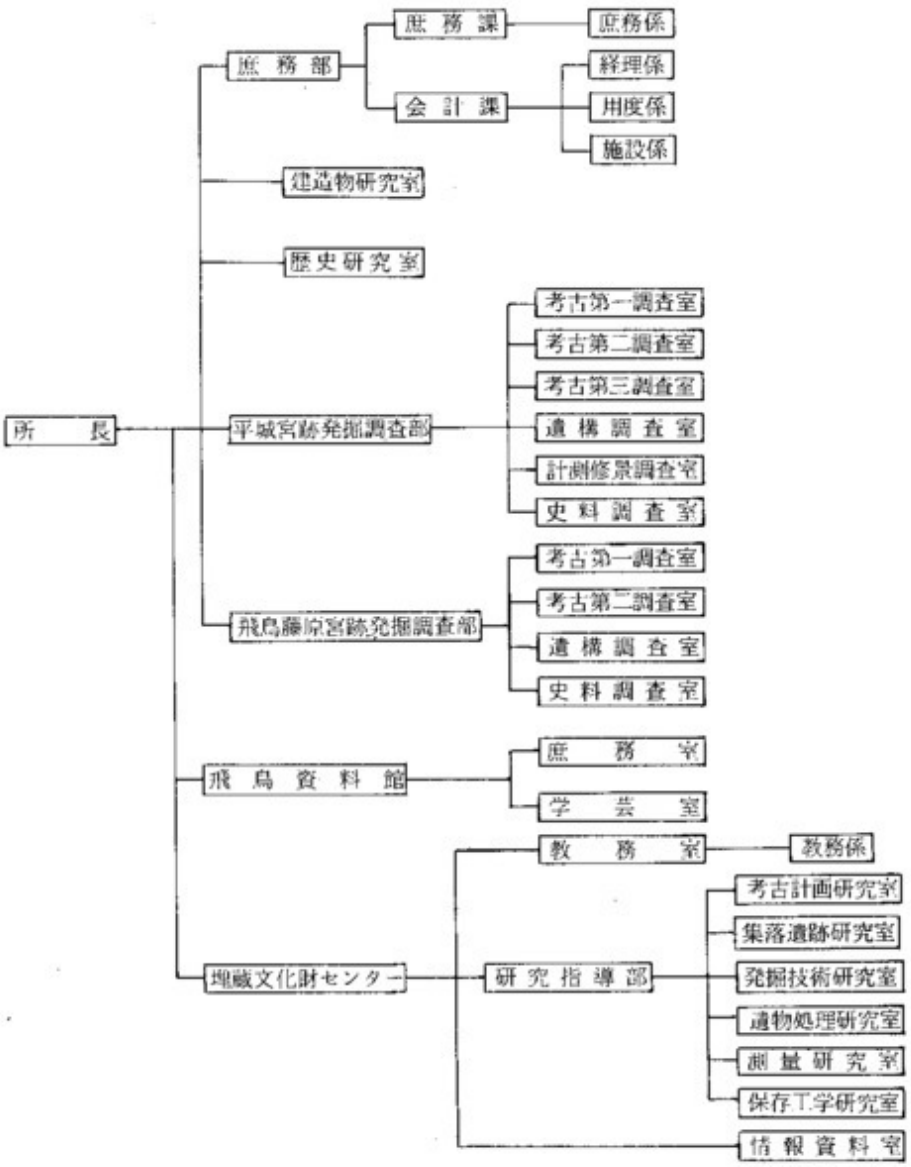
年　表

昭和26.10. 6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会裁定第11号）により設置準備会発足
27. 4. 1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置
29. 7. 1	奈良国立文化財研究所と改称
35.10.15	平城宮跡に発掘調査事務所設置
36. 9.16	庶務室は庶務課となる。
38. 4.10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39. 4. 1	同調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40. 4. 1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
43. 6.15	文化庁発足、その附属機関となる。
45. 4.15	平城宮跡資料館開館
45. 4.17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、遺構調査室、計画修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48. 4.12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置
49. 4.11	庶務部（庶務課、会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測量研究室）設置
50. 3.15	飛鳥資料館開館
50. 4. 2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設
51. 5.10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設
52.10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設
53. 4. 5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室、史料調査室と改める。
53.10. 1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設
55. 4. 5	美術工芸研究室を奈良国立博物館（仏教美術資料研究センター）に移換
55. 4.26	庁舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを庁舎に統合
58.10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に発掘技術研究室新設

組　織

昭和63年4月1日現在

機　構



定　員

区　分	指定職	行政職(一)	行政職(二)	研究職	計
人　員	1	23	3	63	90

役職職員

所長	鈴木嘉吉		
庶務部	部長 廣瀬了平	庶務課長	赤羽紳一
		会計課長	小川照夫
建造物研究室		室長	宮本長二郎
歴史研究室		室長	加藤優
平城宮跡発掘調査部	部長 町田章	考古第一調査室長	金子裕之
		考古第二調査室長	田辺征夫
		考古第三調査室長	毛利光俊彦
		遺構調査室長	上野邦一
		計測修景調査室長	高瀬要
		史料調査室長	綾村宏
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	部長 牛川喜幸	考古第一調査室長	黒崎直
		考古第二調査室長	木下正史
		遺構調査室長	山本忠尚
		史料調査室長	川越俊一
飛鳥資料館	館長 鈴木嘉吉	庶務室長	織田健蔵
	事務取扱	学芸室長	猪熊兼勝
埋蔵文化財センター	センター長 田中琢		
		教務室長	登谷淳哉
		情報資料室長	岩本次郎
研究指導部	部長 佐原真	考古計画研究室長	松沢亜生
		集落遺跡研究室長	工楽善通
		発掘技術研究室長	西村康
		遺物処理研究室長	沢田正昭
		測量研究室長	木全敬蔵
		保存工学研究室長	田中哲雄

予算

歳出予算

（単位 千円）

区分	61年度	62年度	63年度（当初）
人件費	528,202	542,452	558,079
運営費	683,402	1,001,649	738,814
施設費	280,670	280,685	309,394
臨時的経費（臨時行政改革推進費等）	0	0	75,116
計	1,492,274	1,824,786	1,681,403

科学研究費補助金

（ ）書は件数（単位 千円）

区分	60年度	61年度	62年度
特定研究 (1)	(1) 3,200	(1) 1,800	
一般研究 (A)	(2) 18,500	(1) 3,700	(1) 600
〃 (B)	(3) 3,900	(3) 5,500	(2) 2,200
〃 (C)	(2) 3,400	(3) 2,800	(3) 3,100
奨励研究 (A)	(8) 6,100	(4) 3,600	(2) 1,700
試験研究 (1)	(1) 5,050	(1) 1,800	
特別推進研究 (2)	(1) 64,000	(1) 10,000	(1) 8,000
研究成果刊行費	(1) 6,870		(1) 6,790
海外学術調査	(1) 5,100		
計	(30) 116,120	(14) 29,200	(10) 22,390

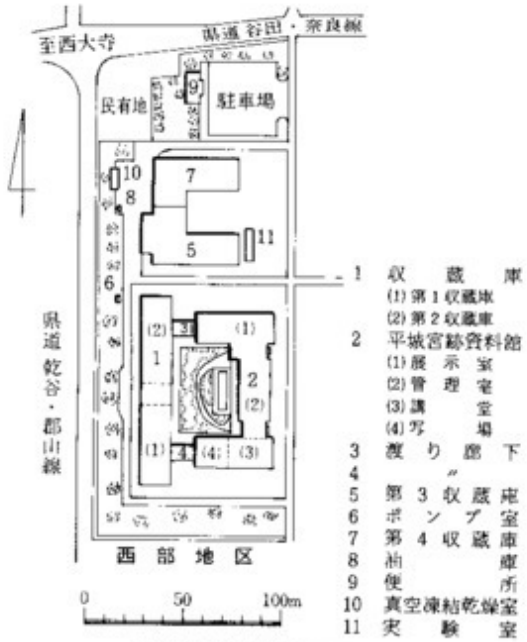
施　設

昭和63年4月1日現在

土地及び建物

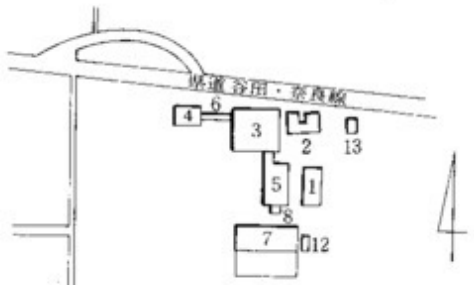
名　称	土地面積	建物面積		備　考
		建面積	延面積	
本　館	8,860 ㎡	2,792 ㎡	6,793 ㎡	
平城宮跡	1,075,299	8,147	11,189	土地……文部省所管 建物……平城宮跡資料館、覆屋等
藤原宮跡	308,932	36	36	土地……文部省所管
藤原発掘調査部	6,721	プレハブ 3,124	プレハブ 3,240	民有地借上
新庁舎〃等用地	20,514	0	0	
飛鳥資料館	17,092	1,465	2,682	
旧米谷家住宅	298	190	213	民有地借上　　重要文化財
宿舎 飛鳥資料館 郡山	1,654 1,343 311	334 225 109	378 225 153	土地231㎡大蔵省所管を含む
合　計	1,439,370	16,088	24,531	

本館配置図



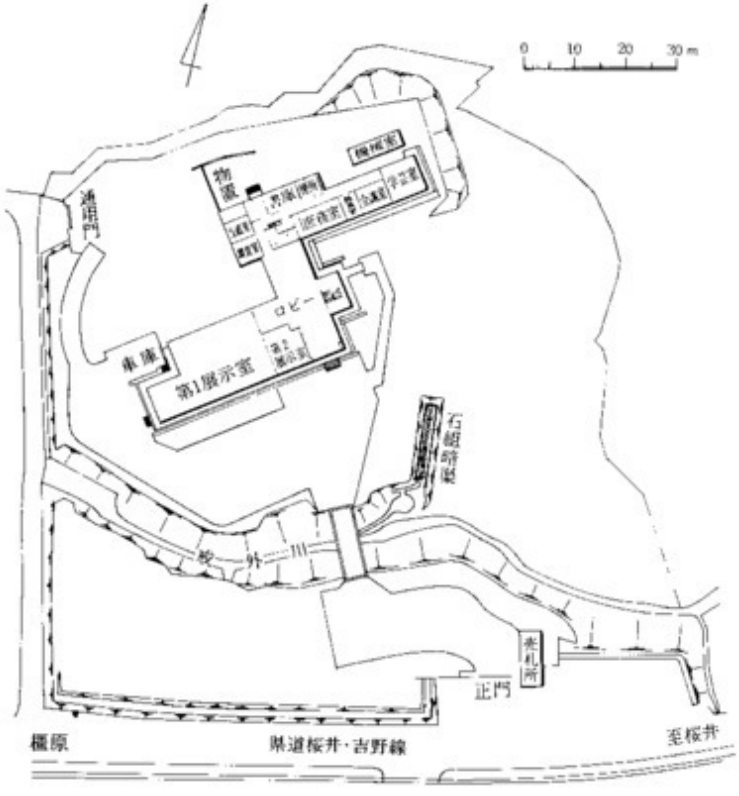
1 収蔵庫
(1) 第1収蔵庫
(2) 第2収蔵庫
2 平城宮跡資料館
(1) 展示室
(2) 管理室
(3) 講堂
(4) 男子便所
3 渡り廊下
4 〃
5 第3収蔵庫
6 ポンプ室
7 第4収蔵庫
8 倉庫
9 便所
10 真空凍結乾燥室
11 実験室

平城宮跡資料館配置図

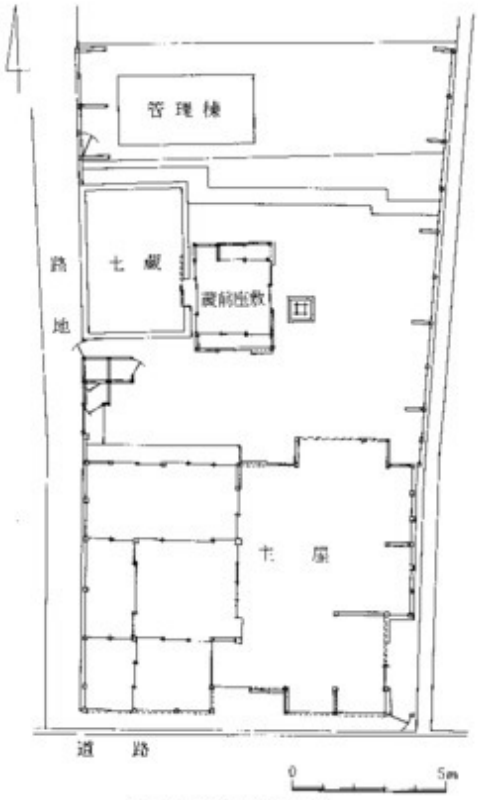


1 発掘棟
2 便所
3 覆屋
4 覆屋附属棟
5 展示棟
6 渡り廊下
7 遺構展示棟
(一部屋外展示)
8 倉庫
9 便所
10 宮内省南殿
(復原建物)
11 宮内省南殿第二殿
(復原建物)
12 便所
13 機械室

平城宮跡覆屋（遺構展示館）配置図



飛鳥資料館配置図

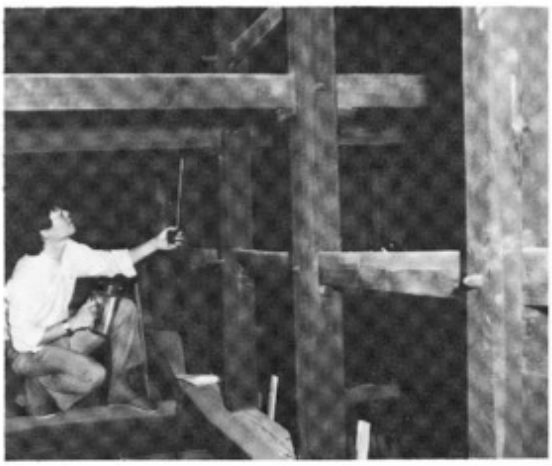


旧米谷家住宅配置図

事　業

建造物研究室

社寺建築・庭園・民家及び伝統的建造物群に関する調査研究とその結果の公表を行う。



旧米谷家住宅修理後

建　造　物　の　調　査

歴史研究室

考古、史跡及び社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の公表を行う。

古　文　書　等　の　調　査

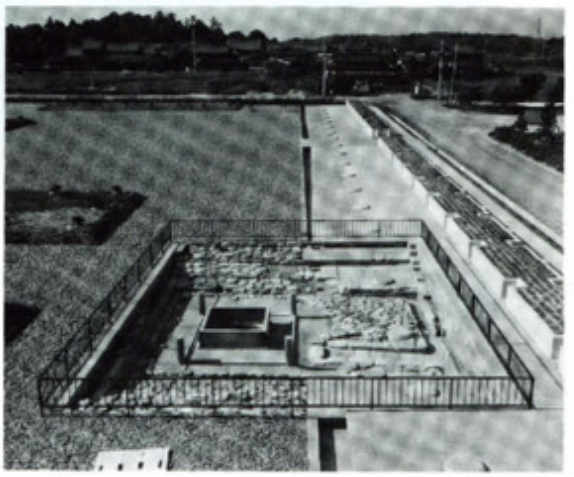
平城宮跡発掘調査部

奈良時代70余年のあいだ都として栄えた平城宮跡等の発掘や調査研究を行うとともに、出土した木器・金属器・土器・瓦・木簡等の遺物や遺構の保存整理、遺構の計測・修景、史料の収集、及びそれらの調査研究とその結果の公表を行う。

さらに発掘調査が終わった地域について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構・遺物等を展示して一般に公開している。

平城宮跡全景

発掘された大極殿



内裏井戸の遺構復原

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥・白鳳文化が開花した時代の中心的地域である飛鳥地方及び藤原宮跡における宮殿その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。

藤原宮跡大極殿周辺

山田寺東回廊建物（北から）

飛鳥資料館

飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。

飛鳥資料館全景

石人像（重要文化財）
飛鳥時代の庭園に使われた噴水

高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

入館者数

（単位　人）

区分 ＼ 年度			昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度
有料観覧	普通観覧	一般	51,818	51,734	48,401
		高・大学生	15,050	14,314	12,905
		小・中学生	17,428	16,695	15,863
	団体観覧	一般	27,728	25,851	22,797
		高・大学生	36,962	30,310	32,858
		小・中学生	78,070	81,200	81,508
	計		227,056	220,104	214,332
無料観覧			9,929	13,401	12,473
合計			236,985	233,505	226,805

埋蔵文化財センター

埋蔵文化財に関する調査研究及び関連技術の開発ならびにその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、昭和62年度までの受講者累計は2,706名である。

区　分	課　程	区　分	課　程
一般研修	一般課程	専門研修	埋蔵文化財情報課程
専門研修	保存科学基礎課程	特別研修	自然科学的年代決定法課程
〃	遺構探査・予備調査課程	〃	遺跡測量外注管理課程
〃	遺跡保存整備課程	〃	報告書作成課程
〃	遺跡測量課程	〃	自然科学的産地同定法課程
〃	弥生時代遺跡調査課程		
〃	環境考古課程		

研　修　風　景

情報処理機器　埋蔵文化財関係資料の情報処理を行う。

P.E.G含浸装置　ポリエチレングリコールを使用し、木材、木器等を永久保存するための処理装置

写真測量図化機　ステレオメトログラフE型を使用して実測図を作成する。

普及活動

（1）公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演題	講演回数	演題
第59回 (61.5.24) 特別 (61.10.26)	古代における墨書人面土器祭祀 古代都城条坊制度の再検討 呉の「鏡師陳世」制作の神獣鏡を考える 中国社会科学院考古研究所長　王　仲殊	第60回 (62.6.6) 第61回 (62.11.14)	仏堂における聴聞の場について 平城京と和同開珎 庭園と眺望 青盖・青羊・黄羊・三羊 ―　鏡銘にみえる災異思想　―

（2）現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

説明会年月日	発掘調査場所	説明会年月日	発掘調査場所
61. 3.15	平城宮跡第171次	62. 3.18	頭塔
4.19	藤原宮跡第47次	3.28	平城京左京三条二坊七坪
61. 6.21	平城宮跡第172次	62. 6.27	平城宮跡第175次
7.19	藤原宮跡第49次	62. 8.29	平城京左京三条二坊七坪
8.23	平城宮跡第173次	62. 9. 5	藤原宮跡第55次
10.25	平城宮跡第172次北	62.10.31	石神遺跡第7次
11. 8	石神遺跡第6次	62.11. 7	平城宮跡第182次
11.22	藤原宮跡第50次	63. 3. 5	平城京左京三条二坊・一・二・七・八坪
12.13	平城京右京八条一坊十四坪	〃	平城京左京二条二坊十四坪

（3）刊行物

イ、学報

年度	名称	年度	名称
1954	第1冊 仏師運慶の研究		第24冊 高山一町並調査報告―
	第2冊 修学院離宮の復原的研究	1975	第25冊 平城京左京三条二坊
1955	第3冊 文化史論叢		第26冊 平城宮発掘調査報告Ⅶ
1956	第4冊 奈良時代僧房の研究		第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告		第28冊 研究論集Ⅲ
1958	第6冊 中世庭園文化史		第29冊 木曽奈良井一町並調査報告―
	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告	1976	第30冊 五条一町並調査報告―
1950	第8冊 文化史論叢Ⅱ	1977	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査の記録Ⅱ
	第9冊 川原寺発掘調査報告		第32冊 研究論集Ⅳ
1960	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告		第33冊 イタリア中部の一山岳集落における民家調査報告
1961	第11冊 院の御所と御堂　院家建築の研究―		
1962	第12冊 巧匠安阿弥陀仏快慶		第34冊 平城宮発掘調査報告Ⅸ
	第13冊 寝殿造系庭園の立地的考察	1978	第35冊 研究論集Ⅴ
	第14冊 唐招提寺蔵「レース」と「金亀舎利塔」に関する研究		第36冊 平城宮整備調査報告Ⅰ
		1979	第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第15冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ		第38冊 研究論集Ⅵ
1963	第16冊 平城宮発掘調査報告Ⅲ	1980	第39冊 平城宮発掘調査報告Ⅹ
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告Ⅳ	1981	第40冊 平城宮発掘調査報告Ⅺ
	第18冊 小堀遠州の作事	1984	第41冊 研究論集Ⅶ
1967	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家		第42冊 平城宮発掘調査報告Ⅻ
1969	第20冊 名物裂の成立		第43冊 日本における近世民家（農家）の系統的発展
1971	第21冊 研究論集Ⅰ		
1973	第22冊 研究論集Ⅱ	1985	第44冊 平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告
1974	第23冊 平城宮発掘調査報告Ⅵ	1986	第45冊 薬師寺発掘調査報告

ロ、史　　料

年度	名　　称	年度	名　　称
1954	第1冊　南無阿弥陀仏作善集（複製）		第15冊　東大寺文書目録第一巻
1955	第2冊　西大寺叡尊伝記集成	1979	第16冊　日本美術院彫刻等修理記録Ⅵ
1963	第3冊　仁和寺史料　寺誌編一		第17冊　平城宮木簡三　図版・解説
1964	第4冊　俊乗坊重源史料集成		第18冊　藤原宮木簡二　図版・解説
1966	第5冊　平城宮木簡一　図版		第19冊　東大寺文書目録第二巻
1967	第6冊　仁和寺史料　寺誌編二	1980	第20冊　日本美術院彫刻等修理記録Ⅶ
1969	第7冊　平城宮木簡一　解説（別冊）		第21冊　東大寺文書目録第三巻
1970	第7冊　唐招提寺史料第一	1981	第22冊　七大寺巡礼私記
1974	第8冊　平城宮木簡二　図版・解説		第23冊　東大寺文書目録第四巻
	第9冊　日本美術院彫刻等修理記録Ⅰ	1982	第24冊　東大寺文書目録第五巻
1975	第10冊　日本美術院彫刻等修理記録Ⅱ		第25冊　平城宮出土墨書土器集成Ⅰ
1976	第11冊　日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ	1983	第26冊　東大寺文書目録第六巻
1977	第12冊　藤原宮木簡一　図版・解説	1984	第27冊　木器集成図録―近畿古代篇―
	第13冊　日本美術院彫刻等修理記録Ⅳ	1985	第28冊　平城宮木簡四　図版・解説
1978	第14冊　日本美術院彫刻等修理記録Ⅴ		第29冊　興福寺典籍文書目録第一巻

ハ、飛鳥資料館図録

年度	名　　称
1976	第1冊　飛鳥白鳳の在銘金銅仏
	第2冊　飛鳥白鳳の在銘金銅仏　銘文篇
1977	第3冊　日本古代の墓誌
1978	第4冊　日本古代の墓誌　銘文篇
	第5冊　古代の誕生仏
1979	第6冊　飛鳥時代の古墳―高松塚とその周辺―
1980	第7冊　日本古代の鴟尾
1981	第8冊　山田寺展
1982	第9冊　高松塚拾年
1983	第10冊　渡来人の寺―檜隈寺と坂田寺
	第11冊　飛鳥の水時計
	第12冊　小建築の世界―埴輪から瓦塔まで
1984	第13冊　藤原宮―半世紀にわたる調査と研究―
1985	第14冊　日本と韓国の塑像
	第15冊　飛鳥寺
1986	第16冊　飛鳥の石造物
1987	第17冊　万葉乃衣食住
	第18冊　壬申の乱
1988	第19冊　古墳を科学する

二、基 準 資 料

年度	名　　称
1973	第1冊　瓦編1　解説
1974	第2冊　瓦編2　解説
1975	第3冊　瓦編3
1976	第4冊　瓦編4
1977	第5冊　瓦編5
1978	第6冊　瓦編6
1979	第7冊　瓦編7
1980	第8冊　瓦編8
1983	第9冊　瓦編9

ホ、地　　図　（大縮尺図、縮尺1：1,000、航空写真より図化）

区　分	図化面数	図　化　地　域
平城京地域	75	押熊、桑原、中山、外山、盾列、渋谷、赤井谷、秋篠寺、山陵、西畑、歌姫、コナベ、ウワナベ、黒髪山、佐保山、船若寺、野神、西大寺、平城宮(一)(二)、法華寺、不退寺、佐保、法蓮、東大寺(一)(二)、宝来、菅原、尼ケ辻、北新、田村、蔵ノ町、三条、興福寺、春日野、春日神社(一)(二)、平松、唐招提寺、六条、柏木、八島田、大安寺(一)(二)、京終、元興寺、紀寺、新薬師寺、大池、薬師寺、西ノ京、杏、八条、神殿、肘塚、北古市、鹿野園(一)、大職冠、西市、観音寺、羅城門、西九条、東九条、北永井、登坂、横井、古市、南郡山、郡山、野垣内、下三橋、上三橋、北之庄、今市、帯解
下ツ道地域	47	大師、若槻、美濃庄、井戸野、池田、蔵之庄、番条、中城、発志院、馬司、伊豆七条、南八条、中、宮堂、二階堂、西嘉幡、嘉幡、庵治、溝幡、石見、唐古、八尾、鍵、田原本、阪手、秦之庄、南阪手、多、笠縫、新口、西垣内、上品寺、新賀、額田部、額田部北方、穴闇、長楽、保田、唐院、沢、大野、小柳、大場、乙木(一)(二)、佐保庄、竹之内
飛鳥藤原地域	48	木原、耳成山、常盤、西之宮、大福、今井(一)(二)、小房、鴨公、高殿北部、膳夫、吉備、畝傍山、大久保、木殿、飛騨、高殿、香久山、池之内、池尻、久米寺、丈六、田中、雷、奥山、山田寺、鳥屋、益田池、見瀬、和田、豊浦、飛鳥寺、八釣、越、野口、立部、橘寺、岡寺(一)(二)、真弓、松前、上平田、祝戸、坂田、観覚寺、栗原、大根田、東常門
計	170	

その他、編集図（縮尺1：2,000）

平城宮跡、藤原宮跡、藤原京(二)(四)、五条野、飛鳥、若槻荘、池田荘、小東荘、乙木荘

へ、年　報

1958～1987毎年１冊　計30冊

ト、埋蔵文化財ニュース

1975～1987毎年数冊　計63冊

蔵書及び資料

蔵　書

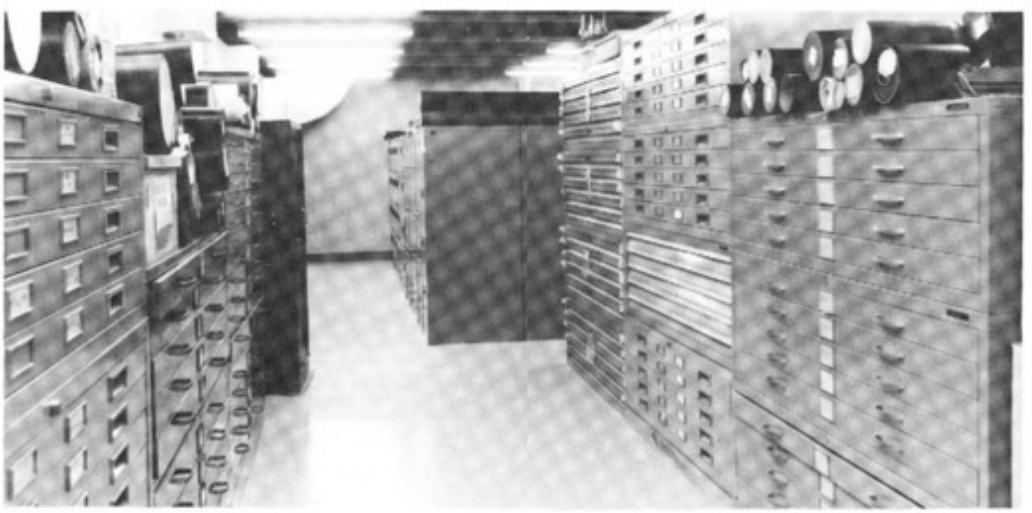
102,048 冊（昭和63年３月31日現在）

区　分	種　別	購　入	寄　贈	計
62 年 度	和　漢　書	1,398	4,697	6,095
	洋　書	84	48	132
累　計	和　漢　書	43,448	52,379	95,827
	洋　書	5,260	961	6,221

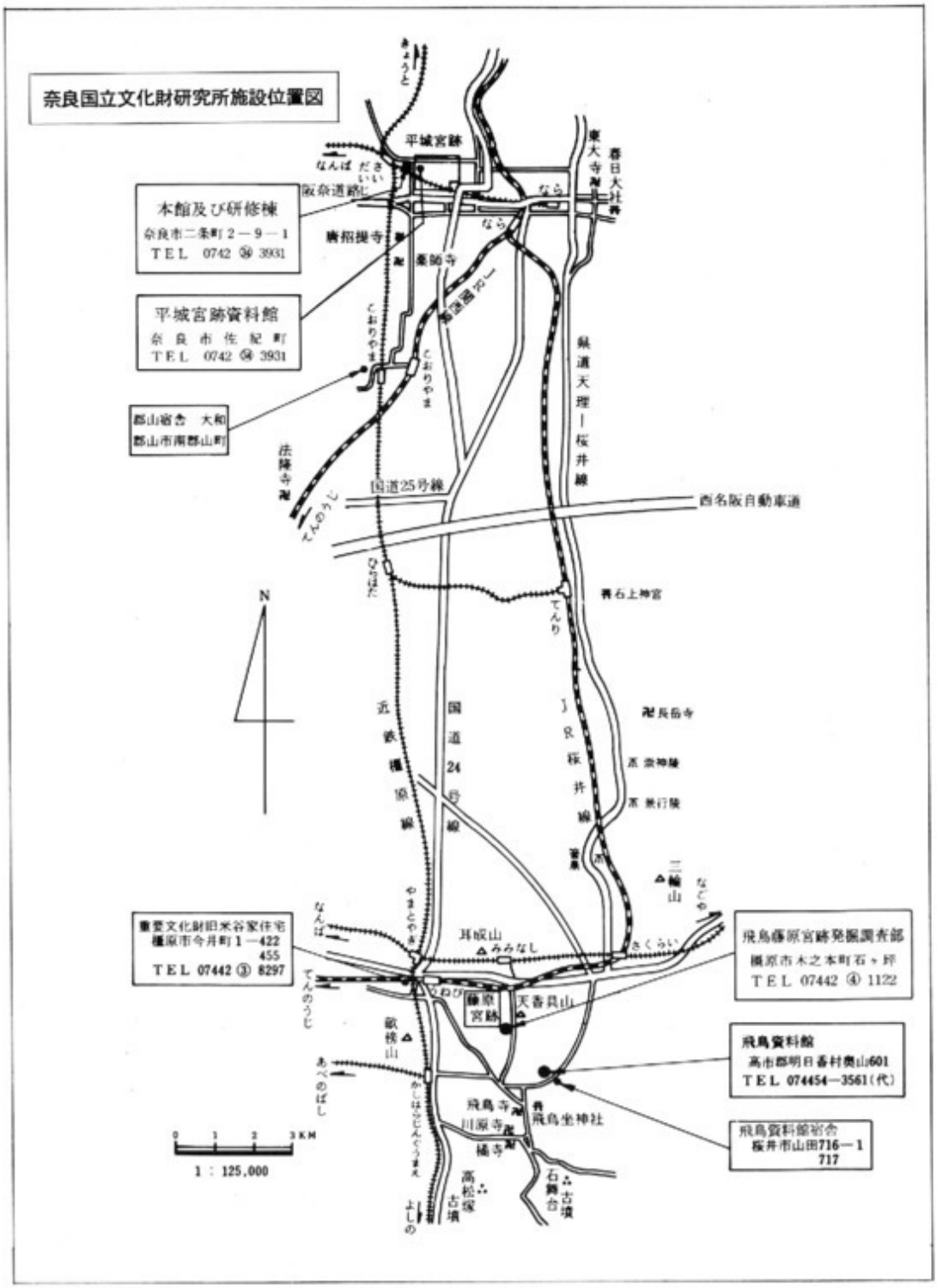
資　料

356,662 点（昭和63年３月31日現在）

区　分	キヤビネ	スライド	ライカー	ブローニー	ミニコピー	そ の 他	計
62 年 度	2,770	3,589	4,415	3,186	62	23	14,045
累　計	112,348	108,894	73,875	51,145	2,252	8,148	356,662



第三書庫　地図、実測図、拓本、航空写真ロールネガなどを保管


奈良国立文化財研究所施設位置図
本館及び研修棟
奈良市二条町2－9－1
TEL 0742 ㉞ 3931
平城宮跡資料館
奈良市佐紀町
TEL 0742 ㉞ 3931
郡山宿舎 大和
郡山市南郡山町
重要文化財旧米谷家住宅
橿原市今井町1－422
455
TEL 07442 ③ 8297
飛鳥藤原宮跡発掘調査部
橿原市木之本町石ヶ坪
TEL 07442 ④ 1122
飛鳥資料館
高市郡明日香村奥山601
TEL 074454－3561(代)
飛鳥資料館宿舎
桜井市山田716－1
717
平城宮跡
阪奈道路
唐招提寺
薬師寺
法隆寺
国道25号線
西名阪自動車道
県道天理－桜井線
近鉄橿原線
国道24号線
JR桜井線
三輪山
耳成山
天香具山
藤原宮跡
飛鳥寺
川原寺
橘寺
飛鳥坐神社
石舞台
高松塚古墳
N
1：125,000

飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西暦	年号	事項	西暦	年号	事項
538		仏教伝来	711	4	大官大寺焼失
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	716	霊亀 2	大安寺を移す
593	推古 1	推古天皇豊浦宮に即位	718	養老 2	薬師寺・元興寺を移す
601	9	聖徳太子斑鳩宮を造る	730	天平 2	薬師寺東塔建立
603	11	小墾田宮に遷る	739	11	法隆寺夢殿、伝法堂建立
606	14	坂田寺を造る	740	12	恭仁宮に遷る。平城宮大極殿等を運ぶ
607	15	法隆寺を造り始める	744	16	難波を都とする
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	745	17	平城宮に還る。法華寺を造る
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	752	天平勝宝 4	東大寺大仏開眼供養
639	11	百済大寺を造り始める	755	7	平城宮改作
640	12	百済宮に遷る	756	8	聖武太皇77忌に遺品を東大寺等に納める
641	13	山田寺を造り始める			
642	皇極 1	小墾田宮に遷る	759	天平宝字 3	唐招提寺を造る。平城宮東朝集殿を唐招提寺に施入
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	761	5	平城宮改作
645	大化 1	難波長柄豊碕宮に遷る			
653	白雉 4	中大兄皇子、皇極等と飛鳥河辺行宮に遷る	765	天平神護 1	西大寺を造る
655	斉明 1	飛鳥板蓋宮焼失、飛鳥川原宮に遷る	767	神護景雲 1	西隆寺を造る。東院玉殿完成
656	2	飛鳥岡本宮に遷る	784	延暦 3	長岡京に遷る
667	天智 6	近江大津宮に遷る			
672	天武 1	飛鳥浄御原宮に遷る	794	13	平安京に遷る
680	9	薬師寺を造り始める。橘寺尼房焼失	809	大同 4	平城上皇、平城宮に遷る
691	持統 5	藤原京を鎮祭する	824	天長 1	平城上皇崩去
694	8	藤原宮に遷る			
710	和銅 3	平城京に遷る。興福寺を造る			

（裏表紙写真）鬼面文鬼瓦

平城宮の内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最大の鬼瓦。天平年間に造営された内裏地域の建物の屋根を飾った。

奈良国立文化財研究所概要

発行日　昭和63年５月30日
発　行　奈良国立文化財研究所